2024　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	理学療法士学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	コミュニケーション学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	普通教室
担 当 教 員	可成　孝多	実務経験とその関連資格				

《授業科目における学習内容》

対人援助職のコミュニケーションに関する基本学習をする。医療倫理を基にした具体的な事例を通して実践技術の習得をグループワークを通して図る。医療職:①対象者、医療職対:②対象者の家族、医療職:③ケアチームという関係だけでなく、①②③の間の関係調整やコーディネート的な役割を担う場合がある。その点についても事例で考えを深めていく。

《成績評価の方法と基準》

授業態度(グループワーク貢献度、授業参加率)50%　課題レポート50%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

・必要な資料は授業中に配布する。

《授業外における学習方法》

・事前学習は前回の授業の内容確認、事後学習は今回の授業の復習。

《履修に当たっての留意点》

コミュニケーションを学ぶ際の最終目標は、「わかる」ことだけでなく、「できる」ことにあります。知識の習得と合わせて、現場での実践力を身につけましょう。演習やグループワークを通して、具体的な実践場面で使えるコミュニケーション能力を高めていきましょう。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	①　コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。 ②　リハビリ職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる。	配布資料	【事前学習】シラバスを読む。(20分) 【事後学習】対人援助におけるコミュニケーションについて復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	対人援助におけるコミュニケーションについて考える。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	①　コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。 ②　リハビリ職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】対人援助におけるコミュニケーションの役割について復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	対人援助におけるコミュニケーションの役割について考える。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	①　コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。 ②　リハビリ職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】対人援助職に求められるコミュニケーション技術の基本の復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	対人援助職に求められるコミュニケーション技術の基本を学ぶ。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	①　コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。 ②　リハビリ職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】これまでの講義内容をまとめる。(40分)
		各コマにおける授業予定	「受容(受け止める)」の大切さを理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	①　コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。 ②　リハビリ職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる。	配布資料	【事前学習】「受容(受け止める)」の大切さの確認。(20分) 【事後学習】授業の復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	「受容(受け止める)」の実践例を学ぶ。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	① コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。 ② リハビリ職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】授業の復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	対象者の心にアプローチする必要がある場合に、どのような実践が望ましく、効果的であるかを学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	③ ケア対象に応じたコミュニケーション技術を演習を通して理解し、実践できる力を身につけることができる。	配布資料	【事前学習】対象者の心にアプローチについて確認。(20分) 【事後学習】これまでの講義内容をまとめる。(40分)
		各コマにおける授業予定	事例検討を通して対応方法を考え、よりよい実践を目指す。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	③ ケア対象に応じたコミュニケーション技術を演習を通して理解し、実践できる力を身につけることができる。	配布資料	【事前学習】前回の事例検討内容の確認。(20分) 【事後学習】授業の復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	事例検討を通して対応方法を考え、よりよい実践を目指す。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	① コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。 ② リハビリ職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】家族とのコミュニケーションのあり方について復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	家族とのコミュニケーションのあり方について、その必要性と効果について学ぶ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	③ ケア対象に応じたコミュニケーション技術を演習を通して理解し、実践できる力を身につけることができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】家族を支えるコミュニケーションについて復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	家族を支えるコミュニケーションにはどのようなものかあるか学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	① コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】これまでの講義内容をまとめる。(40分)
		各コマにおける授業予定	さまざまな対象者に応じたコミュニケーションの基本技術を知り、効果的な実践を学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	③ ケア対象に応じたコミュニケーション技術を演習を通して理解し、実践できる力を身につけることができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】対象者(認知症)とのコミュニケーションについて復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	さまざまな対象者とのコミュニケーション事例(認知症)を通して対応方法を考える。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	③ ケア対象に応じたコミュニケーション技術を演習を通して理解し、実践できる力を身につけることができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】授業の復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	さまざまな対象者とのコミュニケーション8事例を通して対応方法を考える。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	③ ケア対象に応じたコミュニケーション技術を演習を通して理解し、実践できる力を身につけることができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】授業の復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	さまざまな対象者とのコミュニケーション8事例を通して対応方法を考える。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	④ 専門機関におけるコミュニケーションについて理解することができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】本講義内容をまとめる。(40分)
		各コマにおける授業予定	円滑な連携、質の高いチームケア実践のために必要なコミュニケーションのあり方と、実践力をイメージする。		